1　新生児の成熟兆候を示すのはどれか。

a　皮膚が薄い。

b　うぶ毛が多い。

c　皮下脂肪が薄い。

d　足底のしわが多い。

e　耳介軟骨が薄くやわらかい。

2　我が国の保健統計について正しいのはどれか。

a　国勢調査は４年毎に実施される。

b　国勢調査は国内常住外人を含まない。

c　国勢調査には人口動態統計が含まれる。

d　国勢調査は世帯とその構成員が対象である。

e　国勢調査は４月１日午前０時現在の情報である。

3　標準的な３歳児が**できない**のはどれか。

a　三輪車をこぐ。

b　自分の氏名を言う。

c　昼間のオムツがとれる。

d　交互に足を出して階段をのぼる。

e　ジャンケンの勝ち負けが分かる。

4　生活習慣病と保健対策について正しい組合せはどれか。

a　咽頭がん――――――――――――――運　動

b　白血病――――――――――――――高血圧改善

c　骨腫瘍――――――――――――――適切な食事

d　膀胱がん――――――――――――――コンドーム

e　子宮頸がん――――――――――――――ワクチン接種

5　わが国の精神障害者の医療について正しいのはどれか。**３つ選べ。**

a　精神病床数は欧米と同等である。

b　外来では気分障害が増加している。

c　入院患者数は外来患者数より少ない。

d　民間立の精神病院が９割以上を占める。

e　精神科病床の平均在院日数は一般病床の 15 倍以上である。

6　慢性膵炎の晩期合併症として注意すべきはどれか。**２つ選べ。**

a　糖尿病

b　仮性嚢胞

c　消化性潰瘍

d　食道静脈瘤

e　消化吸収障害

7　生後 14 日の正期産児で正しいのはどれか。

a　９％の体重減少

b　１日５回の排便

c　大泉門 0.5 × 0.5 cm

d　１回哺乳量 10～20 m*l*

e　右肋骨弓下に肝を４cm触知

8　妊婦健康診査の時に用いられる物品の写真を示す。

妊娠 10 週未満で、分娩予定日の決定に最も有用な検査法はどれか。

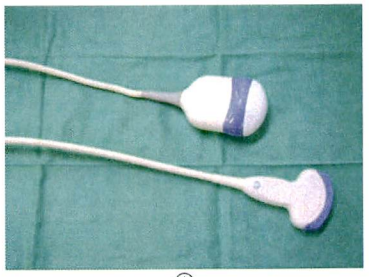
a　①

b　②

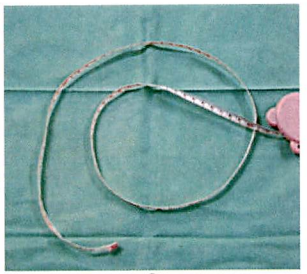
c　③

d　④

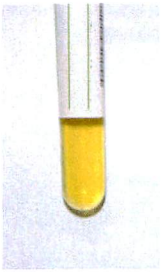
e　⑤



①

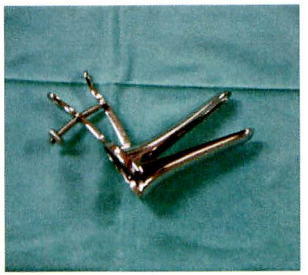


②



③

④



⑤

9　医療安全支援センターについて**誤っている**のはどれか。

a　医療法に基づいて設置される。

b　医療安全の確保に必要な情報の収集や提供を行う。

c　医療従事者に対して医療安全についての研修を実施する。

d　患者またはその家族からの医療に関する苦情や相談に応じる。

e　医師または医療関係者からの患者に関する苦情や相談に応じる。

10　医師法に**記載されていない**のはどれか。

a　応　召

b　処方箋交付

c　診療録記載

d　堕胎の禁止

e　無資格診療の禁止

11　便秘の原因として考えられるのはどれか。**2つ選べ。**

a　肝硬変

b　慢性膵炎

c　WDHA症候群

d　パーキンソン病

e　甲状腺機能低下症

12　降圧薬の副作用や注意点について、**誤っている**のはどれか。

a　サイアザイド系利尿薬は、低カリウム血症や高尿酸血症に注意を要する。

b　アンジオテンシン変換酵素阻害薬の副作用として、咳があげられる。

c　β遮断薬は、気管支喘息の患者には禁忌となる。

d　Ca拮抗薬は下肢の浮腫を生じることがある。

e　α遮断薬は、糖・脂質代謝を悪化させる。

13　Gerstmann症候群について正しいのはどれか。

a　後頭葉に病巣がある。

b　意識障害が特徴である。

c　原因として脳梗塞がある。

d　認知症があるが計算は可能である。

e　髄液検査でタンパク細胞解離がある。

14　高血圧と低カリウム血症をみとめるのはどれか。**2つ選べ。**

a　橋本病

b　Addison病

c　Sheehan症候群

d　Cushing症候群

e　原発性アルドステロン症

15　創傷治癒について正しいのはどれか。

a　二次治癒は瘢痕を残さない。

b　開放創の洗浄に水道水は用いない。

c　糖尿病の併存は創傷治癒を障害する。

d　創の感染には組織の血行は関係がない。

e　壊死組織のデブリドマンは創傷治癒を遅らせる。

16　わが国の母子保健の現状で正しいのはどれか。

a　学童死因の1位は自殺である。

b　妊産婦死因の1位は出血である。

c　幼児死因の1位は先天異常である。

d　早期新生児死因の1位は出血性障害である。

e　乳児死因の1位は乳幼児突然死症候群である。

17　胎児期の器官形成と臓器の成熟について正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　中枢神経系は内胚葉から発生する。

b　胎児副腎の胎児層は妊娠早期に退縮する。

c　胎児赤血球の酸素飽和度は成人に比べて低い。

d　Ⅱ型肺胞上皮細胞は肺表面活性物質を産生する。

e　胎児心拍数は妊娠初期ほど多く、中期以降に減少する。

18　国際生活機能分類について正しいのはどれか。

a　機能障害には構造障害は含まれない。

b　機能障害は参加制約に必須の要素である。

c　車椅子は背景因子のうちで個人因子に分類される。

d　国際生活機能分類は障害者を対象とした分類である。

e　国際生活機能分類は健康状態の構成要素を評価する。

19　わが国の医療保険制度について正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　任意に加入できる。

b　保険料は一律同額である。

c　医療給付は現物給付で行われる。

d　健康診断は給付の対象外である。

e　被用者保険本人の医療は10割給付である。

20　網赤血球が増加を示すのはどれか。

a　急性白血病

b　鉄芽球性貧血

c　鎌状赤血球症

d　再生不良性貧血

e　骨髄異形性症候群

21　**顔面外傷でない**のはどれか。

a　鼻骨骨折

b　涙小管断裂

c　Bennett骨折

d　耳下腺管断裂

e　Le Fort Ⅱ型骨折

22　写真のものについて**誤っている**のはどれか。

a　負傷者がたくさんいる場合に重症度や緊急度を選別する。

b　簡易カルテとして使用する。

c　常に患者に携帯される。

d　黄色は重症である。

e　黒は死亡である。

写真

23　胸部の解剖について正しいのはどれか。

a　胸腺は後縦隔に存在する。

b　大胸筋は上腕骨に付着する。

c　縦隔上縁は鎖骨で形成される。

d　奇静脈は腕頭静脈に流入する。

e　肋骨は背側で肋軟骨に移行する。

24　検脈時に脈拍が整であった場合、その時点で有する不整脈として最も**可能性の低い**のはどれか。

a　心房粗動

b　心房細動

c　完全右脚ブロック

d　完全左脚ブロック

e　完全房室ブロック

25　肝硬変患者に定期的に行うのはどれか。**2つ選べ。**

a　腹部超音波検査

b　上部消化管内視鏡検査

c　下部消化管内視鏡検査

d　磁気共鳴胆管膵管撮影〈MRCP〉

e　ポジトロンエミッション断層撮影〈PET〉

26　**誤っている**組合せはどれか。**2つ選べ。**

a　せん妄――――――――――――――――――――意識障害

b　失外套症候群――――――――――――――――――無動無言

c　Korsakoff症候群――――――――――――――――健　忘

d　Gerstmann症候群――――――――――――――――失　語

e　閉じ込め症候群（locked-in syndrome）――――――眼球運動障害

27　皮疹について正しいのはどれか。

a　水疱は掌蹠には生じない。

b　光線過敏症の診断にはTzanck試験が有用である。

c　びらんとは欠損が真皮の深層にも及ぶ状態である。

d　膨疹は1週間で消褪する皮膚の炎症と定義される。

e　母斑細胞母斑の診断にはダーモスコピー試験が有用である。

28　高齢者で増加するのはどれか。

a　腎機能

b　尿濃縮力

c　体水分量

d　前立腺体積

e　血中テストステロン値

29　甲状腺眼症でみられるのはどれか。

a　瞼裂開大

b　眼瞼下垂

c　眼球陥凹

d　眼瞼けいれん

e　眼瞼部拍動性雑音

30　上眼窩裂を**通らない**脳神経はどれか。

a　動眼神経

b　外転神経

c　視神経

d　滑車神経

e　眼神経

31　図は泌尿器系に見られる上皮である。上皮の名称として正しいのはどれか。

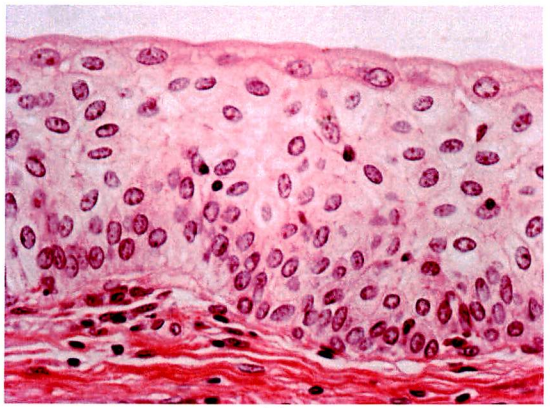
a　移行上皮

b　重層扁平上皮

c　重層立方上皮

d　多列線毛上皮

e　単層扁平上皮



図

32　体液について正しいのはどれか。

a　細胞外液量は、細胞内液量の約２倍である。

b　細胞外液の主要な電解質は、KClである。

c　細胞外液のpH（正常域）は、7.1～7.3である。

d　細胞外液の浸透圧は、細胞内液の浸透圧より低い。

e　細胞外液の浸透圧（正常域）は、330～360 mOsm/kgH_2Oである。

33　組合せで正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a　アドレナリン――――――――――――――血糖低下

b　ガストリン――――――――――――――胃酸分泌抑制

c　グルカゴン――――――――――――――血糖上昇

d　副甲状腺ホルモン（PTH）――――――――骨形成の促進

e　プロラクチン――――――――――――――ラクトース合成の促進

34　孤発性腫瘍と比較したときの家族性腫瘍の特徴として**不適当**なのはどれか。

a　再発する可能性が高い

b　若年発症の傾向がある。

c　悪性度が高いことが多い。

d　他の臓器に重複癌の形で発生する傾向がある。

e　対をなす臓器では両側に発生することが多い。

35　アフリカ旅行から帰国後、41℃の高熱を発し来院した。この患者の血液塗抹のGiemsa染色像を示す。

感染しているのはどれか。

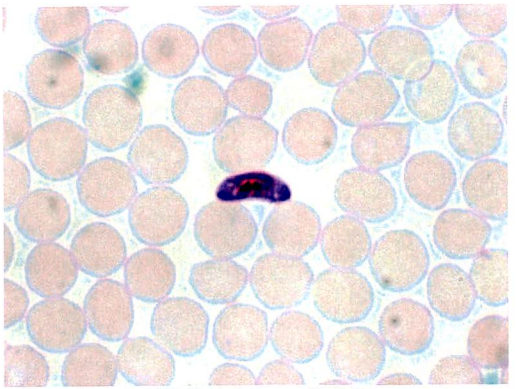
a　マレー糸状虫

b　バンクロフト糸状虫

c　三日熱マラリア原虫

d　熱帯熱マラリア原虫

e　ランブル鞭毛虫栄養体



血液塗抹のGiemsa染色像

36　体重 50 kgの患者に 0.1 %塩酸ドパミン注射液を用いて 8 μg/kg/分で静脈内投与する際の投与速度で正しいのはどれか。

a　0.04 ml/分
b　0.16 ml/分
c　0.4 ml/分
d　0.8 ml/分
e　4.0 ml/分

37　**誤っている**組合せはどれか。

a　メチルメルカプタン――――――――――悪　臭
b　放射性ヨード――――――――――――甲状腺癌
c　一酸化炭素――――――――――――気管支喘息
d　カドミウム――――――――――――イタイイタイ病
e　メチル水銀――――――――――――胎児性水俣病

38　肝臓癌で入院中の患者が死亡した。**異状死でない**のはどれか。**2つ選べ。**

a　肝臓部分切除術後に予期せず死亡した。
b　病気を苦にベッド上で首を吊り死亡した。
c　肝臓癌が自然破裂し、腹腔内出血を起こした。
d　階段で転倒し、外傷性くも膜下出血を起こした。
e　食道静脈瘤が破裂し、気道に血液を吸引し窒息した。

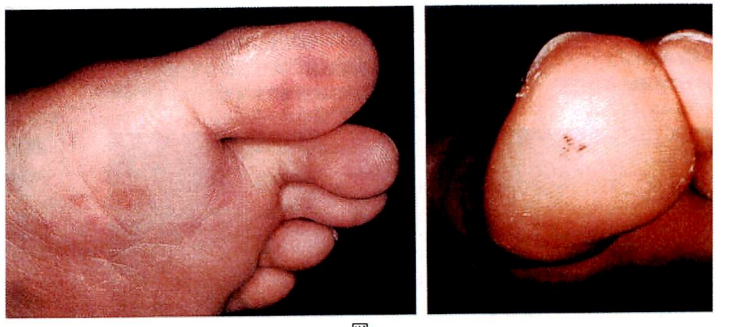
39　産業医が規定されているのはどれか。

a　じん肺法
b　労働基準法
c　作業環境測定法
d　労働安全衛生法
e　労働者災害補償保険法

40　39 歳の男性。過去の健康診断で異常を指摘されたことなし。3 か月前に泌尿器科に入院し開腹手術を受けた。2 週前より、全身倦怠感と 38 ℃の発熱が持続しているため来院。受診時、頸静脈怒張なし。心尖部で 3/6 度の全収縮期雑音を聴取。腹部異常なし。四肢浮腫なし。皮膚に図に示す所見が認められた。

診断に有用な検査はどれか。**2つ選べ。**

a　血液培養
b　頭部MRI検査
c　胸腹部CT検査
d　心臓超音波検査
e　下肢血管超音波検査

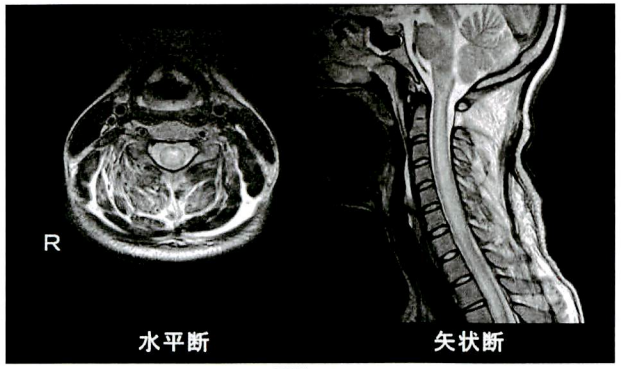


図

41　56 歳の女性。1 週前に感冒に罹患し、近医を受診。感冒薬を処方され改善してきていたが、昨日から発熱と頸部痛が出現し、今朝から四肢の筋力低下を自覚し、歩行困難となったため受診した。頸髄MRIを示す。

認められない神経症候はどれか。

a　膀胱直腸障害
b　四肢腱反射低下
c　四肢全感覚障害
d　Romberg徴候陽性
e　四肢病的反射陽性



頸髄MRI

42　26歳の女性。メロンを食べた直後に口腔内が痒くなり腫れたために来院した。メロンは好物でありよく食べるという。時々食べた後に、喉が痒くなったことがある。10歳頃から秋に鼻水やくしゃみがよく出るという。

この病態に**関与しない**のはどれか。**２つ選べ。**

a　インターロイキン-1

b　インターロイキン-4

c　インターロイキン-5

d　インターロイキン-6

e　インターロイキン-13

43　78歳の女性。うつ病で近医通院中であった。朝食後、夫が買い物に行き帰ってくると食卓に座った状態で刺身包丁を首に刺した状態であるところを夫が発見し救急車を要請した。ノートには遺書と思われる文章が残されていた。救急隊到着時、意識レベルはJCSⅡ－30、血圧測定困難であった。呼吸数30／分、SpO_2 80％（室内気下）、心拍数120／分、顔面蒼白であった。来院時意識は清明で収縮期血圧60台、心拍数100／分、酸素投与下でSpO_2 100％であった。赤血球370万、Hb 10.9 g/dl、Ht 35.2％、白血球7,500、血小板18.7万。気管内挿管後、輸液にて収縮期血圧90 mmHg台まで改善したため造影CTを行った。左血胸を認めトロッカーを挿入後、大動脈造影を施行した。

適切な治療法はどれか。

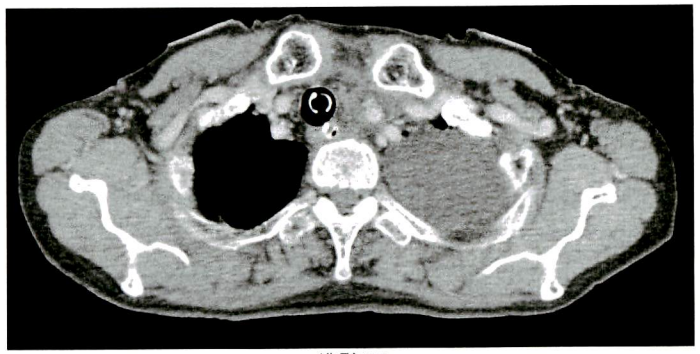
a　動脈塞栓術

b　ステント留置術

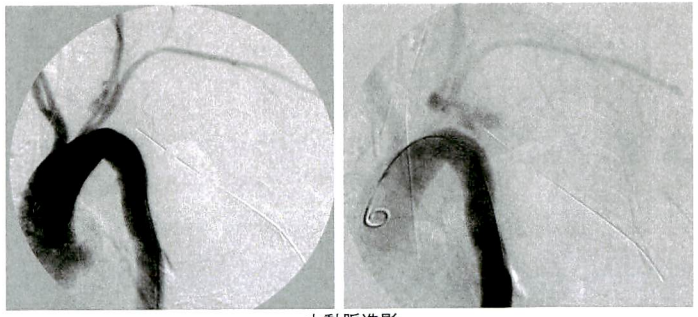
c　バルーン拡張術

d　フィルター留置術

e　ステントグラフト内挿術



造影CT



大動脈造影

44　生後２か月の乳児。陰部の腫瘤を主訴に来院した。出生体重 2,700 g、身長 49 cm。現在の体重 5,400 gであり、１回 220 mlの人工乳を１日６回飲んでいる。排便は２～３日に１回で、黄色泥状顆粒便を多量に認める。定頸は認めず、顔にタオルをかけても払いのけようとしない。右側陰嚢が腫大しており、透光試験で腫瘤は透光されない。

正しいのはどれか。

a　便秘がある。

b　体重増加不良がある。

c　運動発達の遅れがある。

d　人工乳の量は十分である。

e　腫瘤は１歳頃には消失する。

45　36 歳の初産婦。妊娠 40 週２日、前期破水後 60 時間、陣痛発来後 36 時間で経腟分娩した。児は 3,650 gの男児。Apgarスコアは６点（１分値）― ８点（５分値）、臍帯動脈pHは 7.142 だった。産褥２日、38.6 ℃の母体発熱を認めた。呼吸数 24 /分、脈拍 92 /分、血圧 136/88 mmHg。白血球数は 14,200 /mm^3、血清CRP値は 4.58 mg/dlだった。

まず行うのはどれか。

a　内　診

b　造影CT検査

c　血液培養検査

d　動脈血ガス分析

e　胸部エックス線撮影

46　39 歳の女性、大学教員。微熱と全身倦怠感を主訴に来院した。半年ぐらい前から時々咳がでていた。研究のためにフィリピンに毎年３回ぐらい訪問していた。胸部エックス線写真で左肺野に空洞を伴う浸潤影を認め結核と診断された。喀痰塗抹検査でGaffky Ⅴ号であった。

この女性の勤務先でまず行うべきことはどれか。

a　接触した生徒のツベルクリン反応検査

b　接触した生徒へのイソニアジド内服

c　BCG未接種者への接種

d　保健所への届け出

e　大学内の消毒

47　90 歳の男性。下腿骨骨折を受傷し、２か月後に骨癒合を得た。この患者のリハビリテーションを行うにあたって、**誤っている**のはどれか。

a　杖の使用

b　下肢筋力訓練の実施

c　服薬している薬の確認

d　弾性ストッキングの装着

e　家の中の段差をなくす改装

48　20 歳の女性。特記すべき既往歴はなし。今朝、通学途中の電車の中で突然息苦しくなり、呼吸をいくらしても酸素が吸えない感じがした。電車の扉が閉まっているので逃げられず恐くなり、他の乗客に助けを求めた。冷や汗をかき、気が遠くなったが、気を失うわけではなかった。次の停車駅から救急病院へ搬送された。頻脈以外に理学的異常なし。心電図上は洞性頻脈、動脈血ガス分析でPaO_2が 110、$PaCO_2$が 27 で、胸部レントゲン写真と心臓超音波検査では異常が認められなかった。

最も顕著な精神症状の類型はどれか。

a　注意障害

b　思路障害

c　自我障害

d　記憶障害

e　感情障害

49 45歳の男性。半年前から鼻背の結節に気付き、やや拡大してきたため来院した。顔面の写真と同部の皮膚生検H-E染色標本を示す。

治療法として適切なのはどれか。**2つ選べ。**

a　切　除

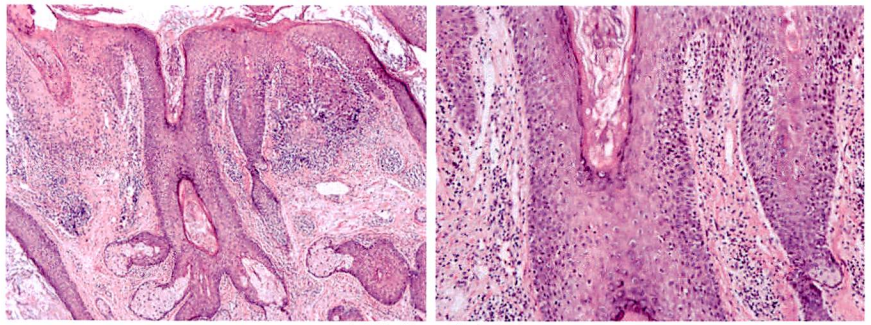
b　凍結療法

c　PUVA療法

d　放射線治療

e　Qスイッチルビーレーザー

顔面の写真



皮膚生検H-E染色標本

50 60歳の男性。今朝から右眼の視力低下に気付き来院した。視力は右0.7（矯正不能）、左1.0（矯正不能）。右眼眼底写真と右蛍光眼底造影写真を示す。

まず行うのはどれか。

a　抗菌薬点滴

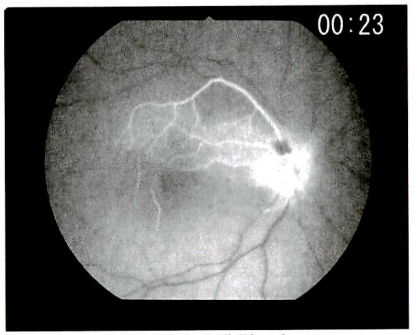
b　硝子体手術

c　高浸透圧利尿薬点滴

d　ペーパーバック

e　ステロイドパルス療法

右眼眼底写真



右蛍光眼底造影写真

次の文を読み、51～53の問いに答えよ。

62歳の女性。発熱を主訴に来院した。

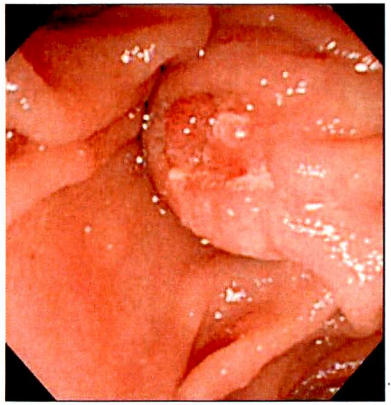
現病歴：10年前より胆石を指摘されていたが無症状で経過していた。1週前から尿の濃染と右上腹部違和感を自覚していた。昨夜より38℃台の発熱が出現している。

既往歴：特記すべきことはない。

現　症：身長158 cm、体重53 kg。体温38.4℃。脈拍86/分 整。血圧148/78 mmHg。眼球結膜に黄染を認める。腹部は平坦で軟。右上腹部に叩打痛を認める。肝臓、胆嚢、脾臓は触知しない。

検査所見：血液所見;白血球12,400、赤血球460万、Hb 13.2 g/dl、血小板26万。血液生化学所見;総蛋白6.4 g/dl、AST 63 IU/l、ALT 78 IU/l、総ビリルビン5.2 mg/dl、直接ビリルビン4.6 mg/dl、ALP 720 IU/l（基準115～359）、アミラーゼ140 IU/l（基準50～160）。免疫学所見；CRP 10.3 mg/ dl、CEA 3 ng/ml（基準5以下）、CA19-9 60 U/ml（基準37以下）。

十二指腸内視鏡写真と核磁気共鳴胆管膵管撮影写真を示す。



十二指腸内視鏡写真

核磁気共鳴胆管膵管撮影写真

51　最初に行うべき処置はどれか。

a　内視鏡的乳頭切除術

b　内視鏡的粘膜下層剥離術

c　内視鏡的胆管結石切石術

d　内視鏡的胆道ドレナージ術

e　内視鏡的膵管ステント留置術

52　診断はどれか。

a　胆嚢癌

b　膵頭部癌

c　急性膵炎

d　総胆管結石症

e　十二指腸乳頭部癌

53　適切な治療法はどれか。

a　胆管切除術

b　膵体尾部切除術

c　開腹下胆嚢摘出術

d　膵頭十二指腸切除術

e　腹腔鏡下胆嚢摘出術

次の文を読み、54～56の問いに答えよ。

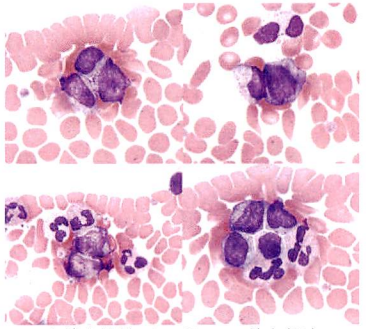
45歳の男性。微熱、全身倦怠感を主訴に来院した。

現病歴：2週前から37℃台の発熱、全身倦怠感が出現。近医を受診し咽頭炎と診断され処方された抗生薬を内服したが軽快せず、次第に増悪した。

既往歴：特記すべきことはない。

現　症：意識は清明。身長160 cm、体重54 kg。体温37.2 ℃。脈拍72/分、整。血圧148/62 mmHg。咽頭に発赤、腫脹を認めない。心雑音はない。呼吸音に異常を認めない。左季肋下に4横指、脾を触知するが圧痛は無い。表在リンパ節は触知しない。下肢に浮腫を認めない。

検査所見：血液所見：赤血球298万、Hb 9.1 g/dl、Ht 27.8 %、網赤血球1.3 %、白血球223,300（好中球84.0 %、単球2.0 %、好酸球6.0 %、好塩基球6.4 %、リンパ球1.6 %）、血小板75.1万。好中球アルカリフォスファターゼスコア40（基準170～335）。血液生化学所見：総蛋白7.1 g/dl、アルブミン4.1 g/dl、尿素窒素20.7 mg/dl、クレアチニン0.95 mg/dl、AST 24 IU/l、ALT 50 IU/l、LD 569 IU/l（基準119～229）、ビタミンB12 ≧ 1500 pg/ml（基準192～775）。免疫学所見：CRP 1.20 mg/dl。末梢血塗抹May-Giemsa染色標本を示す。



末梢血塗抹May-Giemsa染色標本

54　この末梢血塗抹標本の所見で増加しているのはどれか。

a　形質細胞

b　巨赤芽球

c　破砕赤血球

d　環状鉄芽球

e　幼若顆粒球

55　診断確定に有用な遺伝子検査はどれか。

a　RAS遺伝子の変異検索

b　IgH D-J領域の再構成検索

c　bcr/abl融合遺伝子検索

d　Cyclin D1遺伝子の過剰発現検索

e　PIG-A遺伝子の変異検索

56　この患者が入院後一過性の呼吸苦を訴えたため、右大腿動脈より採血。室温放置5分後に動脈血ガス分析をおこなったところ、pH 7.411、Pco_3 57.2 Torr、PO_2 39.6 Torr、HCO_3^- 23.6、BE 0.0であった。理学的には胸部に異常所見を認めていない。

処置として適切なのはどれか。

a　酸素10 l 投与

b　緊急気管内挿管

c　緊急胸部造影CT撮影

d　動脈血採取後、氷冷し直ちに再検

e　左大腿動脈より採血、そのまま5分後に再検

次の文を読み、57～59の問いに答えよ。

62歳の女性。息が切れるため受診した。

現病歴：3年前から寒冷時の手指の蒼白化と手指のソーセージ様の腫脹がみられるようになった。1週程前より、頭痛や立ちくらみや全身倦怠感を自覚するようになった。3日前より「トイレに行く回数が減った」ことを自覚するようになった。昨日は、「トイレには朝一度しか行かず、ちょっとしか尿が出なかった」という。毎朝自宅で血圧測定をしており120/70 mmHg程度だったが、この1か月は忙しく測定はしていなかった。

既往歴・家族歴：特記事項なし。

現　症：身長166 cm、体重65 kg。体温36.4 ℃。脈拍98 /分。血圧214/122 mmHg。軽度貧血あり、黄疸なし。右眼底出血を認めた。また、舌小帯の短縮を認めた。胸部聴診において、両側下肺野背側に吸気相終末に高いラ音が聴取された。心尖部でII音が亢進し、心尖部に高調の収縮期心雑音を聴取した。腹部の聴診で血管雑音は認めなかった。両側下腿に浮腫を認めた。手指の写真を示す。

検査所見：尿検査：サンプル採取できず。動脈血ガス分析（room air）：pH 7.408、PaO_2 81 Torr、$PaCO_2$ 32.2 Torr、HCO_3^- 19.9 mEq/*l*。末梢血液像：赤血球303万、Hb 8.9 g/d*l*、白血球5,200、血小板3.8万、網赤血球数62.0 ‰。血液生化学検査：総蛋白9.1 g/d*l*、γグロブリン2.4 g/d*l*、BUN 84 mg/d*l*、クレアチニン2.8 mg/d*l*、尿酸7.2 mg/d*l*、Na 133 mEq/*l*、K 4.4 mEq/*l*、Cl 100 mEq/*l*、総ビリルビン2.3 mg/d*l*、AST（GOT）80単位、ALT（GPT）35単位、LDH 1,554単位（基準120～240）、CPK 112単位（基準44～165）、CRP 0.21 mg/d*l*、抗核抗体160倍（speckled type）（基準40倍以下）

手指の写真

57　観察されなかった所見はどれか。2つ選べ。

a　オスラー結節（Osler's node）
b　指尖潰瘍（digital ulcer）
c　爪床出血（nail fold bleeding）
d　喘　鳴（stridor）
e　ベルクロ ラ音（Velcro rale）

58　予測される検査結果はどれか。

a　血漿レニン活性上昇
b　血清リゾチーム上昇
c　血清ハプトグロビン上昇
d　抗DNA抗体陽性
e　抗セントロメア抗体陽性

59　まず投与すべき薬物はどれか。

a　カプトプリル
b　プレドニゾロン
c　プロプラノロール
d　メトトレキサート
e　エポプロステノール

次の文を読み、60〜62の問いに答えよ。

31歳の1回経産婦。妊娠34週3日に里帰り分娩のため、受診した。

それまでの通常の妊婦健診を受け、特に異常を認めていなかった。

既往歴：特記すべきことなし。前回の分娩は28歳時、妊娠38週で2,574 gの児を正常経腟分娩している。

母子健康手帳に記載された過去4週間の経過は以下の通りだった（一部抜粋）。

妊娠週日	体重（kg）	血圧（mmHg）	浮腫	尿タンパク	尿糖
30-3	55.4	128/78	—	—	—
32-3	56.5	132/80	—	—	—
34-3	57.3	146/71	+	—	—

60　診断はどれか。

a　妊娠浮腫

b　遅発型妊娠高血圧

c　過重型妊娠高血圧腎症

d　軽症高血圧症合併妊娠

e　早発型妊娠高血圧腎症

61　妊娠36週3日および妊娠37週3日の妊婦健診の際のデータは以下の通りだった。

妊娠週日	体重（kg）	血圧（mmHg）	浮腫	尿タンパク	尿糖
36-3	61.5	148/85	+	—	—
37-3	62.5	156/90	+	3+	—

妊娠37週3日の血液検査結果：Hb 11.5 g/dl、Plt 19.1万/mm^3、ALT 19 U/l、AST 17 U/l、LDH 203 U/l、プロトロンビン時間 11.8 sec。

胎児心拍数陣痛図ではリアクティブパターンを示した。超音波検査では、推定胎児体重は2,520 gだった。Biophysical profile scoreは10点だった。内診では、頭位で子宮口は3 cm開大、展退40 %、Sp-1、頸管は軟で中央に位置していた。

対応として適切なのはどれか。

a　経過観察

b　帝王切開

c　分娩誘発

d　降圧薬投与

e　子宮収縮抑制

62　妊娠37週4日早朝、頭痛を訴えて受診し、緊急入院した。

体温 37.2 ℃。脈拍 68 /分。血圧 186/95 mmHg。内診所見：子宮口開大6 cm、展退80 %、Sp-1。胎児心拍数陣痛図では子宮収縮は不規則でリアクティブパターンを示した。

対応として適切なのはどれか。**3つ選べ。**

a　血球・血液生化学検査

b　降圧薬投与

c　子宮収縮薬投与

d　消炎鎮痛薬投与

e　頭部CT検査